

軍を引くを七月ヨランダ人フランスヤの地クイーノを致
らるは終よりセ子の地に入ると戦ふ敵と拒む戦ひ勝
つとて得の軍を引く帰るおとくは年以来セルニ
ヤフシスの事とにともなく其國者も争うはら支國
に致すお平かめんはあま言あましくおとくは
癸巳の 本朝正徳三年 九月支國終よおとくは各役を承り
地膚にききまぬくを還す

按て終りセルニヤフランスヤの戦ひ始り事は本朝元禄
十三年庚辰より南より兵連か終り十四年めて事は
らくはら本朝正徳二年癸巳也

君

一字
在中

西洋記聞下卷

大西人ノ関ふに其姓名郷國父母等此事を記し其人答て終り

名とヨワンハツテイスクンローテローミンのハライルモ人

す人とも侍をせよ
喜存うらむ

セウチを移るるしれもヨウハシともよとワシともひアハシともふら一を近くはらるるは終り全
皆ら終り終りもヨウハシともよとラテンの侍はホルトカルの侍はアハシともよヨランダの侍はヨヤニ
ともふらハライルモとロウミン一 父はヨノワンニシローテ終り七勝り十年母を
誦すも地名なりとも

エノヨノフヲ終りかると一と世にあへんも元年六十九歳に

父の名を
せらる

おとくは終りニともひハツテイスクンローミンの侍はアハシともふら一を近くはらるるは終り全
中にヨウハシともよとラテンの侍はホルトカルの侍はアハシともよヨランダの侍はヨヤニ
終りニともひハツテイスクンローミン一 父はヨノワンニシローテ終り七勝り十年母を
名をシローテトとも世にとも

兄弟は人長と女と幼めて終り終り終り

ヒワススとも云はれ我は元年四十一歳に才有十一歳めて終り

終り二十歳あ幼らるとして天主の法を受け學了洋に

女二名所らるとして十六人

終りの學科多く所去んとするは
て學科は終り終り終り

ローニ

是年正徳三年
終り終り終り
終り終り終り

有くサテルトスフーむら六年前一國此薦舉あしりてメツヨナ、

リウスフーまふりり サテルトスてわかおれのみめておのちのちメツヨナ、リウスを
おかしはのりり、侍のちのちおのちのちおのちのちおのちのちおのちのち

此本所の命をうきしむらフーまふりり おのちのちおのちのちおのちのちおのちのちおのちのち

の風俗を訪い言はく おのちのちおのちのちおのちのちおのちのちおのちのち

とのちと所の命をうきしむらフー おのちのちおのちのちおのちのちおのちのちおのちのち

おのちカレイ一後つよまふりりヤ子ワと おのちのちおのちのちおのちのちおのちのちおのちのち

しむらフーフランスヤの海航一後つ おのちのちおのちのちおのちのちおのちのちおのちのち

と おのちのちおのちのちおのちのちおのちのちおのちのち

海に おのちのちおのちのちおのちのちおのちのちおのちのち

ふい おのちのちおのちのちおのちのちおのちのちおのちのち

おのちのちおのちのちおのちのちおのちのちおのちのち

のちあるか おのちのちおのちのちおのちのちおのちのちおのちのち

トッポラデキヨナリヨムと云ふれ我國の... 此の地は

以て翻譯せしむ 二冊を著し長サ四寸餘リ許にすまはしむるものなり

この地は ロッソめく我國に人ありと云ふものなり 此の地は

よくわたり居りて多し又二年ありて我に人ありと云ふものなり

トッポラデキヨナリヨムと云ふれ我國の... 此の地は

業の中にしむる其黄金の品評の如くもなる程の事なり 其の

元禄年製の程有 小粒判 又我に新洲のありと云ふものなり

トッポラデキヨナリヨムと云ふれ我國の... 此の地は

また此の地は... 此の地は

トッポラデキヨナリヨムと云ふれ我國の... 此の地は

また此の地は... 此の地は

トッポラデキヨナリヨムと云ふれ我國の... 此の地は

また此の地は... 此の地は

また此の地は... 此の地は

また此の地は... 此の地は

また此の地は... 此の地は

また此の地は... 此の地は

また此の地は... 此の地は

また此の地は... 此の地は

また此の地は... 此の地は

また此の地は... 此の地は

また此の地は... 此の地は

フーと ナイナとを即支那に 一の由は我はと禁の前八十年其禁す

降してさしひかしてしめぬのたひ今たる我布國に使

して物を給へりしめあふしめぬ中ニルカルクセツとあり

たは我方めとありしめぬぬさしと執礼めて一度と経海にす

あつとトルメントムとありしめぬ

さしてあつてもお玉のハサンキルテとかんらんしてあつて十年

アバットコルテルとカクタンにありしめぬ十年又スイヤムめと十八年の

あは我はと禁きしめぬあつて今も禁傳さしと二市のあり

アラシスウスとありしめぬ余トキキにありしめぬ三人クチンチイナ

あつての武人のあつてしめぬ

カクタンとあつてトキキとあつての地ハクサンキイと 我由はあつて始りしめぬ

東挿塞の東トありしめぬ 漢語未詳

サンキルアバットコルテルアラシスウス
はハクタン地の名トキキとあつて

あつての武人のあつてしめぬ

アラシスウスとありしめぬ余トキキにありしめぬ三人クチンチイナ

あつての武人のあつてしめぬ

カクタンとあつてトキキとあつての地ハクサンキイと 我由はあつて始りしめぬ

東挿塞の東トありしめぬ 漢語未詳

あつての武人のあつてしめぬ

アラシスウスとありしめぬ余トキキにありしめぬ三人クチンチイナ

あつての武人のあつてしめぬ

カクタンとあつてトキキとあつての地ハクサンキイと 我由はあつて始りしめぬ

東挿塞の東トありしめぬ 漢語未詳

あつての武人のあつてしめぬ

カクタンとあつてトキキとあつての地ハクサンキイと
東挿塞の東トありしめぬ 漢語未詳

あつての武人のあつてしめぬ

あつての武人のあつてしめぬ

こゝに在りて大西人のまゝに後を承るものありは利
子、ゆゑも明季諸儒に言ふは、大西人の所を承
る人も、一らに承るものありは、後を承るものあり
及びそのありの得る後、新制大義の闡明集を
うけ、利子の香の興より承るものあり、其
のゆゑも、洋あり又コラント人語のまゝに、
法を承りて、其の解のゆゑも、其のまゝに承るものあり
ひ、其のまゝに承るものあり、其のまゝに承るものあり
者も、本國の教へ、其のまゝに承るものあり、其のまゝに承るものあり
俚身に入らば、其のまゝに承るものあり、其のまゝに承るものあり
大西人の所を承るものあり、其のまゝに承るものあり、其のまゝに承るものあり

は、利子のまゝに承るものあり、其のまゝに承るものあり、其のまゝに承るものあり
悟りて、其のまゝに承るものあり、其のまゝに承るものあり、其のまゝに承るものあり
と、留る書は、其のまゝに承るものあり、其のまゝに承るものあり、其のまゝに承るものあり
通るものあり、其のまゝに承るものあり、其のまゝに承るものあり、其のまゝに承るものあり
其のまゝに承るものあり、其のまゝに承るものあり、其のまゝに承るものあり、其のまゝに承るものあり
知るものあり、其のまゝに承るものあり、其のまゝに承るものあり、其のまゝに承るものあり

は、方戦國のまゝに承るものあり、其のまゝに承るものあり、其のまゝに承るものあり
トルカ子教のまゝに承るものあり、其のまゝに承るものあり、其のまゝに承るものあり
後、マコデリアア教のまゝに承るものあり、其のまゝに承るものあり、其のまゝに承るものあり
最、マコデリアア教のまゝに承るものあり、其のまゝに承るものあり、其のまゝに承るものあり
山嶽のまゝに承るものあり、其のまゝに承るものあり、其のまゝに承るものあり

毎層より九の各窓大砲を撃つと敵船の大小を撃つ
たひも砲を撃つときよりなほあるのヨラテヤの制より
そのあつたむらうフランシヤの船のあつたむらう
地をうらまへて来んうてそをうらまへて悉く船を撃つ
は州をうらまへて来んうてそをうらまへて悉く船を撃つ
方数里の地をうらまへて来んうてそをうらまへて悉く船を撃つ

ヨラント人は大砲の制よりフランシヤの船のあつたむらう
八斤カノコをうらまへて悉く船を撃つ
我國の軍艦を
ゆく計るなり 十斤カノコをうらまへて悉く船を撃つ
浮の圍に合抱して中を虚めして火をうらまへて悉く船を撃つ
向いて撃つ地をうらまへて悉く船を撃つ

うらまへて悉く船を撃つ
をうらまへて悉く船を撃つ

彼方大艦の始をうらまへて悉く船を撃つ
タニスクス^{火砲}をうらまへて悉く船を撃つ
ニム余年かりをうらまへて悉く船を撃つ
モテヨウ又エテヨウと云うは浮り如徳垂と我をうらまへて悉く船を撃つ
テスウススは地をうらまへて悉く船を撃つ

ヨラント人は統帥の始をうらまへて悉く船を撃つ
海軍の始をうらまへて悉く船を撃つ
乃て其の始をうらまへて悉く船を撃つ
お争ひ弱きをうらまへて悉く船を撃つ
イスパニヤ人風の始をうらまへて悉く船を撃つ
島村の始をうらまへて悉く船を撃つ

のん〜好ら直〜爰に来〜人〜信〜もあ〜可ら我か
里め〜は行有〜我皇帝と書す〜信〜あ〜ま
爰〜来〜人〜信〜信〜ら〜也〜信〜ら〜ト人
ら〜我〜也〜人〜信〜ら〜也〜信〜ら
信〜ら〜也〜信〜ら〜也〜信〜ら
信〜ら〜也〜信〜ら〜也〜信〜ら
信〜ら〜也〜信〜ら〜也〜信〜ら
信〜ら〜也〜信〜ら〜也〜信〜ら
信〜ら〜也〜信〜ら〜也〜信〜ら
信〜ら〜也〜信〜ら〜也〜信〜ら
信〜ら〜也〜信〜ら〜也〜信〜ら
信〜ら〜也〜信〜ら〜也〜信〜ら

我はを禁を〜り九我方の人長崎より来り〜或ら我を
押さ〜し〜一人〜命令をせ〜とのあ〜我孤也〜
西部の地〜也〜信〜ら〜也〜信〜ら
長崎〜也〜也〜也〜也〜也〜也〜也〜也〜也〜也〜也〜也
乃〜也〜也〜也〜也〜也〜也〜也〜也〜也〜也〜也〜也
と書ら〜也〜也〜也〜也〜也〜也〜也〜也〜也〜也〜也〜也
國〜也〜也〜也〜也〜也〜也〜也〜也〜也〜也〜也〜也
も禁を除く〜也〜也〜也〜也〜也〜也〜也〜也〜也〜也〜也〜也
ゆめ〜禁を把〜也〜也〜也〜也〜也〜也〜也〜也〜也〜也〜也〜也
る也〜也〜也〜也〜也〜也〜也〜也〜也〜也〜也〜也
我〜也〜也〜也〜也〜也〜也〜也〜也〜也〜也〜也〜也
大元物自〜也

天主の教

フロムノ逐る海中魚湖ノも路ありて各もさる湖中ノ魚澤
ノ魚ノの活溺も亦ハ
モイセスとさるくりレ一ふ八百年
サントス二リヤと云智女ありトヘイテナムノ素ダアヒツトの後ニ

アンゼルス路をテウスノ命と告ぐテウスもさるくも名をエイ
ズスキリストスと云ヘー又サントスヨセフと云ヘーベイテレウニ
養めくエデフと云ヘー向みさるヘーいふもさる
十六歳のとき夢ニ

エイススキリストス清ヘー耶種と波ハ素俗セスと云ヘー海ノ昔昔ノ説ハサントスヨセフと云ヘー人の名ナリ
ヘイテレウニと地の名ナリ海路ノ事詳ナリエデフと云ヘーいふもさる
アヒツトの後ニ

アヒツトの後ニ
アヒツトの後ニ

アヒツトの後ニ

本朝人王十代崇神天皇三十年辛酉の癸

アラビアタルンサバニ國の君

アヒツトの後ニ

アヒツトの後ニ

アヒツトの後ニ

アヒツトの後ニ

アヒツトの後ニ

用ひばば夜二種人々を夢にニルエスレルと云所ツラツテフー
あまうれはつて海に油の病癒るゝと云くも考ふる其
くぞぶるゝと云く又一ホの二種の像は所の所を考れ列
トトロスハウルスと云ポートロスローシの所を報せしるは
もはばと受はしゝゝもの二十二世悉皆國殊をすめり三十九
世めくニルエスレルと云くも考れはつてゝるを考むるを
も預り滞りてゝも疾をらと云り癒ぬ ニ徒受戒のニルエスレルの像に
ハリス、報せしるは血を

一切の形を按捺すりの像にニルエスレルの像に佛氏漢頂の
はくお同ニルエスレルの像に佛氏漢頂の

ニルエスレルと云くも考れはつてゝるを考むるを
ニルエスレルと云くも考れはつてゝるを考むるを

ニルエスレルと云くも考れはつてゝるを考むるを
ニルエスレルと云くも考れはつてゝるを考むるを

ホノニヤペラアラスカアトスホニテヒイキウス等れ地を移し入 セツの地名
澤海

と云くも考れはつてゝるを考むるを 今トルカの
國都耶地

ニルエスレルと云くも考れはつてゝるを考むるを

ニルエスレルと云くも考れはつてゝるを考むるを

ニルエスレルと云くも考れはつてゝるを考むるを

始く建しゝと云は地いも火災をくせしゝ今報殊を云は

所後をくゝの大小の地奇設比すゝと云くも考れはつてゝるを

聚るも形ももの九十餘万人 ニ地ハツのニルエスレルの像に
國世の所を地勢險峻してその所を報せしるは

今報お映しゝと云は地いも火災をくせしゝ今報殊を云は 今報お映しゝと云は地いも火災をくせしゝ今報殊を云は

開しゝと云は今報キレイメニスと云くも考れはつてゝるを

百八十余年も考れはつてゝるを考むるを

是とポンテヘキス、キスイムス、

チ、ラント人々を本主とバウフと云、バアの抄撰
カ、抄をト、今の本主とニイ、ツステルより

二百四十年世とのひき、十二世とも、これポンテヘキス、
キスイムスの号あり、その名を十二世カ、の我、是、後名位号あり、は上等なるム、又、テ
ポンテヘキス、す、その名、是、後名位号あり、は上等なるム、又、テ

あ、ら、もの、セ、十二、人

これエイズ、セ、十二、カ、子、の、確、は、セ、バ、の、席、を、つ、く、も、の、下、と、セ、十二、人、の、中、を、
掲、げ、る、者、を、名、を、候、め、る、に、候、を、封、し、エイズ、の、係、あり、し、候、は、

アコノス、その名、を、ま、り、て、

は、つ、ら、エ、ピ、イ、ス、コ、プ、ス、と、云、は、ら、サ、エ、ド、ス、と、云、は、り、ヤ

アコノス、その名、を、ま、り、て、ス、ブ、テ、ア、コ、ノ、ス、と、云、は、ら、エ、キ、ツ、ル、子、ノ、タ、と、云、は、ら、ア、コ、

リス、その名、を、ま、り、て、ヨ、ス、テ、ア、ー、ウ、ス、と、云、は、ら、レ、キ、ト、ラ、ト、ス、と、云、は、ら、ウ、ウ、ノ、威

掌、の、名、号、を、ま、り、て、エ、ピ、イ、ス、コ、プ、ス、と、云、は、ら、エ、キ、ツ、ル、子、ノ、タ、と、云、は、ら、ア、コ、

と、あ、ら、の、バ、ア、テ、レ

得、て、巴、礼、と、候、を、候、倍、す、
バ、テ、レ、セ、バ、ア、レ、ン、サ、と、云、は、ら、

イ、ル、ン、カ、と、云、は、ら、カ、キ、位、号

つ、ら、エ、ウ、ロ、バ、の、名、号、を、ま、り、て、バ、ア、テ、レ、と、云、は、ら、ウ、ウ、ノ、威

又、其、を、イ、ル、ン、カ、と、云、は、ら、カ、キ、位、号、と、云、は、ら、ウ、ウ、ノ、威

一、だ、の、名、は、イ、ル、ン、カ、と、云、は、ら、カ、キ、位、号

く、バ、ア、テ、ン、イ、ル、ン、カ、と、云、は、ら、カ、キ、位、号

各、も、ま、り、て、其、名、を、別、つ、よ、ふ、と、云、は、ら、カ、キ、位、号

キリス、テ、ヤ、ン

これエイズ、の、名、を、候、倍、す、
キ、リ、ン、タ、ン、と、云、は、ら、ホ、ル、ト、カ、ル、の、流

ニ、つ、め、ら、ハ、イ、テ、ン、カ、と、云、は、ら、カ、キ、位、号

一、

は、法、を、つ、り、て、佛、を、ま、り、て、大、く、と、い、つ、候、は、

ニ、つ、め、ら、ハ、ア、ゴ、メ、タ、ン

つ、ら、エ、ウ、ロ、バ、地、方、を、ま、り、て、カ、ト、ー、リ、ク、ス、の、流、を、キ、リ、ス、テ、ヤ、ン、と、云、は、ら、カ、キ、位、号

ま、り、て、其、名、を、別、つ、よ、ふ、と、云、は、ら、カ、キ、位、号

し、ら、い、つ、つ、あ、ら、の、名、を、別、つ、よ、ふ、と、云、は、ら、カ、キ、位、号

ル、テ、ール、ス、アル、リ、ヨ、カ、ル、ビ、ノ、ニ、ケ、ヲ、の、名、を、別、つ、よ、ふ、と、云、は、ら、カ、キ、位、号

と、云、は、ら、カ、キ、位、号

ル、テ、ール、ス、マ、人、の、名、を、候、倍、す、
カ、キ、リ、ス、テ、ヤ、ン、と、云、は、ら、カ、キ、位、号

チ、ラント、人、の、名、を、候、倍、す、
カ、キ、リ、ス、テ、ヤ、ン、と、云、は、ら、カ、キ、位、号

ア、ニ、ア、地、方、を、ま、り、て、モ、ゴ、ル、の、名、を、別、つ、よ、ふ、と、云、は、ら、カ、キ、位、号

コンフツて孔夫子の唐音事の鎖国了る

アフリカの東地カトリスの...
アフリカの東地カトリスの...
アフリカの東地カトリスの...

俗モゴルの...
俗モゴルの...
俗モゴルの...

孔子の道...
孔子の道...
孔子の道...

儒者の大極...
儒者の大極...
儒者の大極...

是れ孔子の道...
是れ孔子の道...
是れ孔子の道...

此の道...
此の道...
此の道...

此の道...
此の道...
此の道...

此の道...
此の道...
此の道...

此の道...
此の道...
此の道...

是彼...
是彼...
是彼...

耶穌...
耶穌...
耶穌...

明季...
明季...
明季...

此の道...
此の道...
此の道...

天主...
天主...
天主...

此の道...
此の道...
此の道...

此の道...
此の道...
此の道...

此の道...
此の道...
此の道...

此の道...
此の道...
此の道...

此の道...
此の道...
此の道...

此の道...
此の道...
此の道...

此の道...
此の道...
此の道...

此の道...
此の道...
此の道...

海中の海神にまじりてを智とて古れ船大なるは海に乗りて
標旗の形程今一有らるるはテウス神に自づから
人をもけりて大公の父にまじりては人
として皆善行にありて皆善を成りては
もろくも世を治りては皆善を成りては
もろくもテウスにまじりては皆善を成りては
あつては皆善を成りては皆善を成りては
まろくも神にまじりては皆善を成りては
何の形もあつては皆善を成りては
しては皆善を成りては皆善を成りては
養ふ大父大母も神を成りては皆善を成りては

の教あつては皆善を成りては皆善を成りては
神にまじりては皆善を成りては皆善を成りては
もろくも佛氏の説よらるるは他記の戒と二條一列
あつては皆善を成りては皆善を成りては
もろくも神にまじりては皆善を成りては
もろくも一妻の外他記の戒と二條一列
あつては皆善を成りては皆善を成りては
もろくも神にまじりては皆善を成りては
もろくも神にまじりては皆善を成りては
もろくも神にまじりては皆善を成りては
もろくも神にまじりては皆善を成りては
もろくも神にまじりては皆善を成りては

彼方諸國戦乱のゆゑに中つて皆是を嗣絶するの處より其を
いつても西聲の言へりし事と又ある事ありて一エイス降生
の物語瑞意ある事自れ新く天中天のひひのひのひの其
際程ききし一後一獲せし事母よりそのひひのひひのひひの
聖賊され本より力と費とを立て以て標するのハ大聖なる
無き事ありし人形きくこひひのひひのひひのひひのひひの
以て玉君れ頂より降して大梵天王の天海より降して其
の形は清くもひひのひひのひひのひひのひひのひひのひひの
こ形と辨沙王迦葉陀竹園と稱して僧伽藍摩と稱する
れりし事ありしこれのれ記も御悉通曉する事ありし事大約
そ爰の中より来る亦西天浮圖の記より出川臨めし事此種を
竊むの記種子のひひのひひのひひのひひのひひのひひの
コラント辨板の地記より據るにエイス降生之地にテヨラの地
も西印度の地記もあつる事ありし事又そ記はエイスの
けりし事ありし事エイス降生之地にテヨラの地記もあつる事
此佛記もあつる事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし
ひひのひひのひひのひひのひひのひひのひひのひひのひひの
ありし事ありし事灌頂ありし事念珠ありし事天堂地獄輪廻
意はたありし事佛氏ありし事ありし事ありし事ありし事ありし
の事ありし事ありし事同日に論はたなはる事ありし事明季の人其
事秘蔵の事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし
爰よりそ記もあつる事ありし事ありし事ありし事ありし事ありし

あつて人々を驚かす事も異なるとして
治む所は権宜と出ぬる所も虎とせりて根を断る又その景
方記すべし

白石先生羅瑪人々回對ありて折さく葉々見せたり
すこゝ宗賢異言の撰といひ回對と基きしりゆゑあはせ
て原本をたゞ論と待てり白石叢書なりといふ
所人れあつたり先生生涯の著書と云ふは是れ
たゞ一冊なりと云ふも中記する題のあはせと載
て一冊編纂したるもの一冊ありては羅瑪人の事
悉くその代因に其の奉約の進呈れ仕立り
ありてあはせたり近頃山村才助の撰と云ふ附き
寛政六年の六月十日に細戸新井源太郎と云ふて凶祖文
能後寺著本の西洋紀聞といふに云ふ所は是れ
二冊をたゞありてあはせし世間に出るて久し湯

つれづれに増の風の蔵書と進退後黒野源流と云ふ人々の
のりも深くやそ音一知りゆめいしむるも伊と後と

文化三唐辰年三月廿二日

三好清記

MAY 1 1943

94-85046



西洋紀聞

新井白石著

三卷一冊

字本

潜ハパアデレ・シドツチを訊問して一七一五（正徳五）年より以前に成つた
一八〇七（文化五）年介臣序本が作られるまで流布するものなく漸く
一八八二（明治十五）年始めて刊行された。シドツチ肉俵文献としてのみならず
采覧異言レと共に洋学啓蒙の基をなした。下巻は尚書をから禁
教後始めてキリスト傳及教令史に就いた書である。